



放送作家情報

1996/9/25 Vol.12

発行/社団法人日本放送作家協会
 編集/広報委員会
 〒106 東京都港区六本木6-2-5ハラビル
 TEL 03-3401-5996 FAX 03-3479-4250

3 2期号

「無投稿」も貴重なメッセージと考え、待望の第3号。

「米軍基地の賛否見直し」を問う、沖縄の県民投票が9月の初頭に行われた。「基地」の整理・縮小への賛成票は89%……。戦後51年目にして沖縄の投げかけた「民意」は、今後の基地行政に大きな影響を与えるだろう。しかし、投票率は、かろうじて過半数を越す59%だったと聞く。良くも悪くも、「基地」と共に半世紀を歩んできた沖縄には、「イエス」か「ノー」か、「ゼロ」か「イチ」かのデジタルな判断では割り切れない複雑な気持ちがあるに違いない。

良く言われることだが、我々は最近、デジタル思考に慣れすぎてしまっている。「無投票」に含まれた意味も、しっかり受け止めねばなるまい。

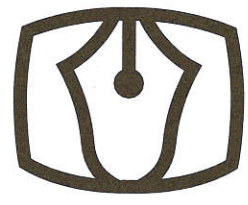
さて、我々の「放送作家情報」も3号めを迎えた。忙しい中、原稿の強引な依頼や無粋な催促で、毎回、恐怖やプレッシャーを感じている会員の方も多いことと思う。原稿をいただいた方には感謝、多謝!!……そして残り、95%に昇る会員からの「無投稿」によるメッセージの重さも真摯に噛み締めながら、ここに、一周年記念号をお届けいたします。

CONTENTS

特集	パソコンと私	2
	オピニオン	5
	創作テレビドラマ公募 受賞パーティのご案内	6
	企画アリマス	7
	マイアビール・マイクエスチョン	9
	私のストレス解消法	11
特別寄稿	暴走ビデオ頼末記-2	12
	日本放送作家協会新執行部	13
	掲示板	13
	執筆者リスト 連絡先一覧	14
	編集後記にかえて	15

STAFF

企画・編集/井川公彦・井上美保子
 清水喜美子・田北豊明・東多江子
 平柳益実・藤森尊(五十音順)
 デザイン・DTP/井口妙子(Catamaran)
 印刷/株式会社美松堂



社団法人日本放送作家協会

パソコンと私

藤堂平助

ホームページを作った と言うものの…

そもそも、僕は機械に弱い。しかし、新し物好きなので、電子機器の類には目が無い。パソコン1号機は、10年前に手に入れた。結局、ワープロとして使っただけで終わってしまったが、去年の暮れ、2号機を手に入れ、インターネットに加入。今年の春には、解説書片手に、ホームページを開設した。しかし、開設したはいいが、発信する情報が何も無い事に愕然。初めは「この業界の裏側でも暴露すれば面白いかな…」なんて思ったのだが、いざ書き始めると、何かと差し障りがある事ばかりで筆が進まない。こういう時、絵や小説でも書きためていれば、いい発表の場になるんだろうが、あいにく、そういう物は何もない。それに、自己満足に走るだけでは、誰も見に来てくれやしない。そこで当初、ホームページを開設している女性に的を絞り、作者の顔写真付き(インターネットの世界では、相手のホームページから自由に写真をダウンロードできるのです。)カタログを作ったのだが、作業上の効率から事後承諾でやったのがまずかった。写真の肖像権の問題である。別に、営利目的でやっているわけじゃないし、本人のホームページを紹介するのに、本人の顔を使うのだから…と軽く考えていたのが甘かった。たった一人の女性とトラブルってしまった事が原因で、ネットワークの恐ろしさ。山ほどの抗議メールが送られてきた。そして結局、1カ月余りでそのコーナーは廃止。今は、たわいもない雑文などを掲載してお茶を濁している。

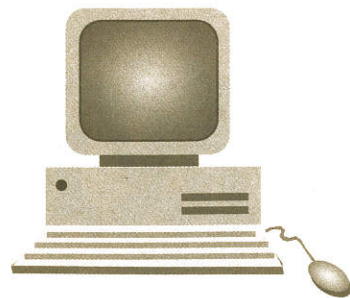
はみだし情報

転居のお知らせ

すみません。この場をお借りして、転居の報告をさせていただきます。

〒245 横浜市泉区弥生台6-21 TEL 045-82-4946
相鉄いずみ線の弥生台という小さな駅から徒歩2分。
その割には静かで、住み心地の良い処です。

溝田佳奈



しかし、ホームページって一体何なのだろう？新聞や雑誌と同じくマスメディアなんだろう？それとも、ミニコミ誌や壁新聞などのようなものなんだろう？ホームページというメディアの不思議さを感じる今日この頃である。ちなみに、わがホームページのアドレスは…<http://www.kt.rim.or.jp/~heisuke>です。

藤森 尊

パソコンとは 距離を置くように……

先日、あるパソコンに関する本を読んでいて、いたく感心した。パソコンの活用術をアドバイスしたもので、資料整理の仕方など私の仕事にかなり役立つような内容だった。パソコンに関する本といえたいが興味乾燥、文章減茶苦茶、メーカーの宣伝だけのものが多いが、これは違った。本の巻末に著者のID番号が出ていたので、返事を期待しないで感謝！の読後感を送る。……と数日後ネット著者からの返事が届いた。この辺がパソコンのいいところでワープロ専門機とは格段に違うところ。返事は丁寧な感謝の後に「私は最近パソコンとは距離を置くようにしています……創造する仕事はあまり頼らない方が……」との内容。複雑な心境の私。……が、やはりはまっている私です。

平柳 益実

インターネットに 期待すること

専門分野に通じた人々がそれぞれ一項目を担い、インターネットを通じて新しい情報を発信・更新しながら、ネット上に巨大な電子百科事典を作ろうという構想があるとパソコン雑誌で読んだ。そういうことが可能ならば、今後シナリオ・ライターが個々に情報発信の窓口を持ち、自分のシナリオを希望者が閲覧できるようにしておけば、そのまま「脚本電子図書館・資料館」みたいなものも作れるということになる。わざわざ製本・出版したり、使用済みの台本を製作会社や個人の好意に頼って収集・保存しようとするより各方面での負担が少ないと思う。パソコンなど使いたくな

いという作家もいるので、すべての作品をネットにのせるのは不可能だが、少なくともタイトルや作家を検索のメニューに加えれば、読みたい脚本がどこにあるか確認するヒントにはなる。

もちろんこうしたデータは悪用される可能性も大きいし、そういう開示は嫌だというむきもあるだろう。しかし、オリジナルな台本が、製作、演出の過程を経て微妙に違ったものになり観客や視聴者の耳目に触れる宿命を持っている以上、最初にイメージを文字に定着させた作家が何を考えていたのかわかるよすがを残すことは、脚本家という存在をアピールしたり、これから脚本の勉強をする世代にとっても大きな助けになるはずだ。

学生時代、戦前・戦後のガリ版刷り台本などの資料を整理するアルバイトをした。

その時、うっかり床に落としたサイレント映画の台本の角が枯葉のように砕けた時のショックは20年近く経った今でも鮮明に覚えている。担当の先生はマツ青になった。ぼくは無責任にジョージ・パル監督の『タイム・マシン』(’60)で、80万年後の未来世界で図書館を訪れ歴史書をひもとこうとした主人公の手の中で、書物が灰のように崩れたシーンを連想していた。

電子データが書物より長く残るかどうか、今のところ誰も保証してはくれない。ほとんどが印刷はされても残す配慮などされない脚本は、トリュフォーの『華氏451』のラストで本を愛する人々が一人ひとり本になってしまったように、作者自身が電子の図書館の棚のひとつになることで生き長らえるのではないだろうか。Nif.ID: KFF02241

井上美保子

忍び寄る“その日”の足音

ある朝突然、パソコンがらみの仕事が舞い込んだ。「わっ、私パソコンできないんですが」。なのに、「いいから、いーから」と連れていかれた。とにかく急ぎで、誰でもよかったらいい。仕事も無事に終盤に入ったブレイクタイム、「私もパソコン買った方がいいかなあ？」ともらしたのが間違いだった。「うん、楽しいですよ」「井上さんの仕事にも絶対役立つですよ」とぐり囲まれた。ソフト会社の面々は目をキラキサさせ、いかにパソコンが素晴らしいかを語る。挙げ句の果てに、「じゃあ、ソフトあげましょ」と善意の申し出が相次いだ。

タダほど怖いものはない。人々の善意をムダにするなど、小心者のわたしにはできようはずもない。私は泣く泣く、秋葉原に向かった。

パソコンが届いた。だがなんたることか、アパートの玄関から入らない。パソコンとはこんなにでかかったのか。オフィスや店頭ではごくコンパクトに見えたが、あれは周囲が広がったからだ。私は外に出て、ダンボールと詰め物のウレタンをひんむき、やっとのことで室内に運び込んだ。運送屋さんの同情的視線が背中に痛かった。

実は自信があった。コンピューターというものが、まだ珍し

かった当時、(ああ年がばれる)、私は社内为数少ない、コンピューターを動かせるOLだった。結構いばっていた、ような気がする。今の商売を始めてワープロを買った時だって、その日からパコパコと迷うことなく原稿を打った。

それなのに……。女友達曰く「ああ、スポーツや語学と同じで、彼氏に教えてもらうのが一番よ。むこうは熱心だし、こっちも一所懸命になるでしょ」。殴ろうか、と思った。また「あの会社」に行くことになった。きっと彼らは、「どうでしたか、あのソフト」とニコニコしながら聞くことだろう。私はどう答えたらいいのだ。

辻 真矢

たまには発信するものだ

パソコン通信は4年前ニフティサーブへ入って以来、ミステリーフォーラムで、もっぱらヒトさまのおしゃべりをのぞきただけだった。たまたま2ヶ月くらい前、もののはずみで発言したら、若手作家の綾辻さんと太田さんからコメントが寄せられ恐縮した。もっとも折原さんには、ホントに辻さんが書き込んだの？と疑いの目で見られたけれど。打てば響く、というのは楽しいことですね。

森 治美

厭しきは、パソコン

「教えますよ、いつでも」そう言ってくれる人がいて、昨年師走に、一度だけ触らせてもらった。早い、筋がいいと褒められはしたが、どうも又、触ってみようという気にはなれない。

日本語を横書きするのさえ気持ちが悪いと思う性である。「ローマ字入力なんて、おかしい」「画面の文字が横組なのが気に入らない」「文字に書き手(入力者)の想いが無い」「音が耳障り」「どうなっているのだ、この機械は？不可解極まりない。」……と、文句ばかりが心に浮かぶ。無論、パソコンはワープロとは違う。他には様々な機能があり利用価値もある。が、どれも私を魅きつけはしない。私のパソコン嫌いは機械オンチ、アレルギーと言え言える。が、要するに好奇心・探求心のなさを物語る。加えて、世間のパソコンに流れる風潮に対する天の邪鬼ぶりを。

パソコン好きにならないまでも、できるようになる為の望みはひとつ。書くという仕事はパソコン使用でなくては通らない、その時である。長い間、プッシュボタンの電話がかけられなかった。今はできる。ダイヤル式がないに等しいのだから。留守番電話やファクスも仕事関係の何人もの人に入れるように言われ、設置し使えるようになった。むしろ今は、重宝している。出来なかったビデオの録画も、仕事上どうしても必要で覚えた。昨年、冬のことである。パソコンも多分いつかきつと……そう思う。

しかし、それが果たして善い事なのか悪い事なのか……。

■特集・パソコンと私

渡辺美治

永遠の少年

「パソコンは、まだ生まれればかりの子供のようなもの。成長過程にトラブルはつきもの。やがて技術は完成し、問題は解決するでしょう。」

……はじめてパソコンと出会った頃、こんな言葉をよく耳にした。それなら完成するまで待とう。……あれから18年。世間では嵐のようなブーム。きっと一人前のレベルに成長したんだろう。そんな期待を抱きつつ、とうとう我が家にもパソコンを迎え入れた……。のだが、何やら動作が不安定。救いを求めて本屋へと走り、専門誌を買いあさった。その中で出会ったのは、あの懐かしい言葉……

「……パソコンはまだ成長過程にあります。やがて問題は解決するでしょう……」

さしずめ永遠の少年というところか。

「この仕事、始めたばかりなんで……」

なんて言い訳が通らなくなった私には、羨ましい限りである。

津川 泉

親指シフトとの別れ

今年の「ニューズウィーク」別冊のパソコン特集に私がハングルを打つパワーユーザー風に紹介されたことがあったが、なんのことはない、まだまだもたついている超ビギナーである。ハングルを打ちたくて、昨夏、パソコンを導入。ハングル教室のクラスメイトに大いに自慢できた。以来、一年。仕事の忙しさにかまけて、とんとハングルを打つ機会が少なくなりました。

仕事はまだオアシスのワープロ専用機とパソコンとが半々くらい。親指シフトのせいで、なかなかローマ字入力に慣れず、パソコンは専らプリンターサーバーと化している。しかし、鈍くて高いワープロのインクリボンとおさらばできたのは幸いであつた。ウインドウズ95はメモリー増設して、今年購入。FAXと通信にはつなぐつもりだけど、インターネットはもう少し行方を見定めてからにするつもり。90年、一冊の本を上梓するために、大量の文書を処理する必要に迫られて買ったワープロ専用機だが、6年間故障知らずで力になってくれたその親指シフトとも、どうやら今年がお別れの年になりそうだ。

清水喜美子

パソコン事始め

「すぐ使えます」というキャッチフレーズを信じて、ワープロからパソコンに買い換えてほぼ4ヶ月。「誇大広告じゃー!!!」と何度叫びそうになったか。なんとか仕事に必要な文章はうてるようになった、パソコン通信も、インターネットにもアクセスできるようになった。確かに便利な機能が満載。しかし、まだ一割……使えるはずの機能の九割は使いこなせない

でいる。「99点でもダメ。こいつは100点満点じゃないと動いてくれないんですよ」使い初めて間もなく、突然、パソコンからのFAX通信が不能になり、あれこれ原因を探ること数時間。ついにギブアップして、パソコン派遣家庭教師という助っ人に来てもらった。先のセリフはその時の家庭教師の言葉。パソコンにファジーはあり得ないのだ。しかし、不思議なことに4ヶ月も毎日、パソコンと付き合っていると、仕事の相棒として愛情が湧いてくる。未開拓の九割のことを考えると、いつかマスターしてやるぜと、まるで恋人を攻略するみたいにワクワクしてしまう。これって、もしかするとパソコンオタクへの道を通ってワタシ!!

データ通信は強い味方

データ通信はワープロの頃からの国内最大のネットワークNIFTY-Serveを利用していましたが、資料集めや取材にはかなり助かっている。障害者の息子と母親を描く「おふくろシリーズ」では、今年もNIFTYの「障害者フォーラム」の人々には大変お世話になった。日本の身障者スポーツ界のドンと言われる大阪のF先生を紹介してくれたのもパソコン通信で知り合った仲間。そのF先生からモデルになりそうな鹿児島青年を紹介していただき……と取材の棒はどんどん広がっていった。障害を持った人、持たない人、全国のたくさんの人々と意見を交換しながら、一本のシナリオが完成した。パソコン通信に関しては、当初の目的……知り合いの少ない東京でいかにして取材のネットワークを作るか……をほぼ満たしてくれたと思っている。

斉藤 信

富士通株式会社 広報部 マルチメディア担当

自分にあつたパソコンを見つけよう!

パソコンで難しいと思ってませんか? それは多分何でもできる機械だからです。例えば、洗濯機は服を洗う機械、自動車は人や荷物を運ぶ機械ってように用途や機能がはっきりしていますよね。パソコンは、ゲームで遊べる、事務処理ができる、絵や音楽も作れる。通信機能を使えば、郵便の代わりにか買い物や銀行の代わりにやってくれる! だから、使い方をよく考えないと、どうしたらいいのか迷って、そのうちガラクタになっちゃうんです。その点、ワープロは文章作成マシンって決まっているからとつきやすいけど、中味はパソコンとほとんど同じなんですよ。

パソコンそのものが好きなオタクは別として、普通の人には、まず自分のやりたいことをはっきりさせて、そのためにパソコンをどう役立てるかを考えることが大切だと思いますね。だって、スイッチ入れれば何か見れるテレビと違って、ある程度、扱う人の気合いを要求する機械ですから、パソコンって。

THE OPINION

オピニオン

つまり、意見です。「意見を言う」というアクション、ちょっとご無沙汰だった気がしますね。

吉田 剛

オピニオンのごとき愚痴

「お客に親切、役者に親切、興行元に親切、それが作家の心得だ」と河竹黙阿弥は言ったそうな。達人の言、プロの覚悟である。私も躁で機嫌のいいときはそんな気分になるが、なかなかそんな作品はできないものだし、お客はともかく役者や興行元(プロデューサー)とのよき出会いもなかなか難しい。また、それほどの覚悟をする度胸もない。チェホフの言うごとく、せめて、「ケチなプチブル根性を一滴一滴、血の中から、絞り捨て、ある朝、ああ、いま私の血は完全に自由で、私は完全に自由な人間だ、としみじみ思える。」そんな目覚めをしたいものだが、さてそれも覚悟と度胸がいるだろうなあ。

小山内美江子

カンボジアの子どもに学校をつくる会

海外での名前はJHP(ジャパン・ティーチ・オブ・ヤング・ヒューマンパワー)と言うものを主宰しており、ユーゴにも若ものを送り込んでいます。地球の環境、世界情勢、日本の政治・経済そして我らが働き場のテレビ界など、いやになることが多すぎの中で、現地で学生たちと共に流す汗。カンボジアの子どもたちとの泥だらけの交流と笑顔にゾッポリとはまっています。実体験がなくあまりのカルチャーショックに半べそだったりする日本の若ものが、2、3週間の活動で見ちがえるほど意欲的になる変化がたまたま得難い喜びを味わっています。(問い合わせ先 03-5563-2821)

鈴木 進

アクセントの乱れが気になっています。

TVのアナウンサーも人によってちがいます。ほんの一例ですが……

三河(愛知県) 私は ○三沢あけみのアクセントだと思うですが

TVでは、●美川憲一のアクセントで読んでいます。

背景 私は、○体系、会計、休憩と同じだと思いますが

TVでは、●風景、神経と同じにしています。

再現 私は、○会見、祭典、回転、才媛

TVでは、●表現、宣言、方言

先週末(今週末)私は、○東京ガス、関東バス

TVでは、●千秋楽、円周率……

私の感覚が古くて、最近は変わったのでしょうか?

どこかできちんとして、「正しい日本語」を守りたいものです。ついでに、レポーターや天気予報もなるべく訛らないで、正しいアクセントに統一してもらいたいと思っています。

尾中洋一

作家組織のユニオンショップ化

TBS問題をきっかけに「テレビのあり方」「放送のあり方」が問われています。その検証すべき問題のひとつに「作家の権益」「脚本家の是正」「局と作家のあり方」「プロダクションと脚本家のあり方」もあるでしょう。

これをきっかけに「作家組織のユニオンショップ化」その前提となる両組織の合同という「近代化への道」を真剣に考えてみてはどうでしょう。「開拓」「革新」への「けもの道」を歩く勇気をもちましょう。

三浦則夫

「一気飲み」死亡事故に学べ

この間、一気飲みで死亡事故が起き、問題になった。これに似たテレビ番組に「大食い、早食い競争」というのがあつた。知り合いの某局広報担当に「あれ、ヤバイよ」といったら、「でも数字がとれるんでね」とつねえん答が返ってきた。いまのところひどい事故はまだ起きていないようだが、賞金めあての出場者の顔はまともに見ていられない。

一気飲み事故の起きた名古屋では市民団体が、容疑者不特定のまま傷害致死罪で告発しているそうだが、番組で起きたら当然、局の責任。営業、免許停止もくらいかねない。ほかにもカコクな賞金付やらせ番組を見かけるが、視聴率、視聴率とさわいでいる間に民放の深刻なピンチが迫っている。炯眼の士はとっくにそれに気づいて危機対策に心をくだいているだろうが。

小泉準司

テレビ番組の向上を!

テレビや新聞と離れて田舎へ行き、そこで、テレビなど見る機会なく、さて、久しぶりに帰ってきてテレビを見てみる。よいものはいっぱいあるが、わるいものが目立つ。いきなり各家庭へとびこむものがこれでよいのか、と絶句。TBSを、よいとかわるいとかは別として、あれだけいじめた。それだけのエネルギーがテレビ番組向上にはないのか。みんなで考えなおすときが来ている。

後藤正義

「シナリオ講座」の教室から

某校で「シナリオ講座」を担当しているが、生徒は三年生と一年生。別々に教えているが、シナリオ作家志望よりCMディレクター、CMクリエイターが圧倒的に多い。「創作するということはどういうことか」からはじまり「シナリオを必要とする世界」演劇、テレビ、CM、イベント、次に「日本演劇史」を簡略に説明した。念の為に訊いてみた。文楽(狂言)を見た人は? 歌舞伎は? 能は? 新派は? 日本人の生徒はだれもだれも見えていない。唯一人韓国留学生だけが一人全部見ていた。映画も名作といわれるものもほとんど見てないし小説もあまり読んでない。あわててカリキュラムを変更、舞台についての基礎や日本文化論を教え始めた。柱やト書、台詞、主題や展開、人物像以前の問題である。やがて、CMもコンピューターやCG、台詞まで作ってくれるのかも知れないが、主題(テーマ)とは何かを考えるのは教える方かも知れない。どうなるのだろうか。

大館哲弘

本当に大切なものは?

人に道を尋ねられたら、それが3ヶ月に一人なら丁寧に教えてあげることが出来るのに、一日に百人の人に尋ねられたら、悲しいことですが百人目の人には詳しく丁寧に説明をしなくなるでしょう。半田舎暮らしを始めて約一年、都会と田舎の違いはこんなところにあり、そしてそれがとても大切なことのような気がしてきました。人とのつき合いにも、恋にも仕事にもこれは共通することなのかもしれません。多勢の人との交際はすべて深くとは行きませんし、言い寄る異性が星の数ほどいれば大切に思う心も違って来ますし、(残念ながら経験はありませんが……)あり余る仕事を抱えれば多少納得が行

ご案内

創作テレビドラマ公募受賞パーティ

第21回創作テレビドラマ公募(助成放送文化基金、後援NHK、日本放送出版協会)の受賞パーティが行なわれます。新人のために祝福に来てください。

日時: 10月22日(火)

受賞式典/午後3時から パーティ/4時から

場所: 六本木・日本放送作家協会

かなくてもこなして行くのでしょうか(残念ながらこの経験もありませんが……)。多勢の人と触れ合うからといって自分にとって大切な人、望む人との触れ合いが得られているわけではありません。沢山の情報がとびかっていますが自分にとって大切な情報が得られているわけではありません。何もかもが不足、欠乏していた時代の反動で欲望のとりこになって生きてきた私達も、そろそろ頭を冷やして長い目で見て、本当に大切なものだけを選んで求める生活を始めなければいけないのではないのでしょうか?

阿久澤克之

キーワードは“役に立つ”

この春、テレビ界を騒がせた「TBS坂本弁護士ビデオ問題」をきっかけに、「ワイドショー」の存在意義、そのあり方や番組姿勢などが問われている。私は、“お父さんのためのワイドショー講座”を担当していたが、「ワイドショー」そのものは、幸か不幸か、この16年間、一度も担当したことがない。“他人の不幸で飯を食う”という声もある「ワイドショー」は、一方で、視聴者の関心を反映した“時代の合わせ鏡”ともいわれ、その奥は深い。しかし、「ワイドショー」を含めて、今、テレビ番組として、必要不可欠なモノは“役に立つ”ことではないか。私がここで言う“役に立つ”は、何も生活情報やHOW TOだけではなく、ドラマを見て共感や感動を得ることが出来れば、それは、視聴者にとって“役に立つ”ことであるし、「ワイドショー」を見て井戸端会議の主役になれたり、歌番組を見て友人との会話が弾むことも立派に“役に立つ”ことである。さらにいわゆる“裸番組”も、視聴者にとって何らかの“役”に立てば番組としての存在意義はあると思う。ただし、その“役に立つ”層が、少なくとも、国民の10%以上いることが、放送としてのひとつの目安であり、番組としての判断基準だ。

竹内日出男

「テベント三昧」

最近、ラジオ番組親切的なニュースをよく聞く。どん底に落ちていたこのジャンルを大切にしようと、私たち放作協の有志は4年間にわたって海外にも呼びかけ、『国際オーディオドラマコンクール森繁賞』を文字通りの手弁当で実施した。そのイベントならぬ“テベント”も、多少の刺激を与えたか。目下、私たちは懲りもせず、全国各地で『オーディオ作品制作セミナー』なるものを開くべく、関東、中部、近畿と駆けまわっている。受講希望者の熱意と関係各局の支援が嬉しい。『森繁賞』が経済的な理由で休止となり、新たなコンクールが産声を上げないのは残念だが、ラジオのみならずテレビの世界でも、もっと国際的な呼びかけが必要ではないのか。放送局側も頑張ってください。

企画
ア
リ
マ
ス

HAVE A PLAN.

ここは、企画のフリーマーケット。自由に手にとってご覧下さいませ。'JUST LOOKING' はダメよ。

勝野まさる

中国関連企画あります

- ◎中国の高級リゾート地に集まる高級官僚の子息、令嬢たち!
 - ◎中国にあった日本人村?!
 - ◎東京にはびこる中国窃盗団「アリババ」?!
 - ◎在日華僑たちが語る「お金の殖やし方」
- 03-3355-5791

竹村 潔

大恥の子、中絶残留依怙地!!

大河小説・嵯峨野(190枚)

これは喜劇でも悲劇でもない。心やさしき青年が挑む華の道を縦糸に、京の四季折々の美観を横糸に綾成した鎮魂青春巨編である。継父のかぎりない悪態に業を煮やした20歳の青年が大学受験失敗を機に、実母を残して東京を去る。京都で華道の師範をしていると噂される実父を訪ねる心算でいる。実母に「実父は死亡した」と教え込まれていた。新幹線の車中、湯ノ山温泉(三重県)でホテルを経営している男と出会い、意気投合して、暫くホテルで働く事になる。この出会いが、青年の運命を大きく変えて行く。京都の茶問屋の一行がホテルを訪ねる。その中に華道アカデミー(嵯峨野)の校長が居、青年の活けた花を見て甚く感動し、それが縁となって京都へ向かう切っ掛けをつかむ。ホテルの従業員達に苛められて日々悶々とし、花材集めのために山中を歩き廻っている折りに知り合った美少女が、世話になっているオーナーのドラ息子に陵辱される事件が勃発、

恩と憎悪を背負って京都へ向かう。

青年を迎えたのは娘二人息子一人の五人家族。母子家庭に育った青年には眩しい程、赫いた家族であった。取り分け長女は京美人で、華道の修行と長女への思慕の間に心が揺らぐ。春秋の二回、大覚寺で華道展が挙行され、此処の数年、最優秀賞を独占している師範が居た。青年も初回から新人らしくらぬ卓抜した技量を見せるが、その師範の壁は巨大で、なかなか打ち破ることが出来ない。強さの秘密を探るべくその師範の家を訪ねてみる。言葉遣いから、互いに東京出身だと知る。その師範こそ、19年前に妻子を捨てて東京を去った実の父であった。しかし、自分を最大の敵と見做して日々切磋琢磨している青年の気魂を瀦ましてはならじと、父である事を名乗らず、青年も同じ意味で母の名を口にしなかった。青年が遂に最大の敵を倒したその夜、師範が訪ねて来て、親子の名乗りをあげる。青年は自分と母を捨てて一人東京を去った父を激しく叱責し、過労で実母が急死していたが「母を殺したのはあんただ」と声を張り上げた。妻の遺影の前で嗚咽する父……。

青年と長女は結婚、湯ノ山温泉を訪ねる。ホテルのオーナーがかわって、一人のこっていた仲居頭に事の顛末を聞く。美少女を陵辱したドラ息子を殺し、自ら首を括って死亡したと。

山を下りる時青年に石を投げつけた子供が居た。ホテルの女子従業員に童貞を奪われた折りに出来た子供であった。その子も、青年と同じ運命を辿るのかも知れなかった。現在、連ドラ(1時間2クール)に脚色中。既に16回脱稿。御一左右あれば本編のコピーを贈らせて頂きます。尚、小説の方は前後編とも完稿。川端康成文学を超越した大作! 連載、製本、何れでも可。出版社の皆さん、これはノーベル賞のものでござい! 是非声をかけて下さい。

西澤 實

ストレス雲散霧消の「天地」

越智観世取材旅行(承前)

宿願の「元雅」、執筆の前の取材と称して、ついに先般五月に、奈良県南部、高取町越智に旅した。学究・権威が書き残して下さった関係資料はおよそ読み終えて、あとは、何が何でも現地の山川草木のたたずまいを、この眼で見たい、所謂“倭古京”と一口に言われて国史の節目毎に、その史上の重要人物を招き寄せた“土地柄”の現実の大気を肺いっぱい吸い溜めて書齋に戻りたい。そういう想いで降り立った橿原神宮駅に、当の越智の名刹光雲寺の住職・関俊道師が自家用車で迎えて下さり、当方の希望を悉く容れた取材プランを用意して、この上なく無駄のない効果的取材を、極めて短時間のうちに、終えることができた。師をはじめ、初めてお目にかかる高取町の識者の方々は、皆さん、旧知のようであった。たとえ時間がかかってもよい作品を書き上げることが、「御礼」だと思っている。とりあえず誌上深謝叩頭。

長谷井杏亮

出版社探しています

小説「渦潮秘抄」原稿用紙1200枚脱稿。単行本として出版希望。

世に名高い能島、来島、因島、村上三家海賊の始祖に当たる村上師清と、この人物を村上海賊の棟梁に仕立て上げた男達の物語です。太平記の語る南北朝抗争の戦記を背景に、「海の民」が一族の命運を一人の若者に託そうとした乱世の伝説でもあり、又、一人の若者が妖しい運命に操られ、よに逆巻く虚無から自我を確立するまでの伝記ロマンでもあります。内容はTVドラマ、劇画にも向き、雑誌等の連載でも構いません。

福井貞則

ユニークな企画アリマス

大学生、大学院生、専門学校生が、遊び感覚で考えた企画がいっぱいあります。

☆若者は「人間」が好きです。好奇心いっぱいの人間企画はいかがですか。

☆女性は「流行」が好きです。男性では見えない流行企画はいかがですか。

わたしが指導しているというより、若者と一緒に楽しみながら(遊びながら)企画を考えています。いつでも映像化して下さい!!

関上芳裕

71才で監督に挑戦します

「推理文学」のお仲間だった森村誠一さんの力作ノンフィクション「悪魔の飽食」を、自ら製作、脚本、監督で映画化します。71才で映画監督としてデビューするわけです。

毛利恒之さんの「月光の夏」が成功したのはスタッフの皆さんの協力の賜物と聞きましたが、私もむろん良きスタッフの協力を期待します。しかし、映画の成否を決めるのはシナリオです。快心のシナリオを書き上げた時点でクランクインします。

大南勝彦

隣国ロシアとの交流史を両国が知り合うことこそ急務。ご支援を!

日露関係改善のため、日露史研究25年の実績を生かして日露交流史のビデオを自主制作、ロシアの5~10都市に講演、巡回上映(放送)致した。政府も北方領土問題では私の著作資料を使いましたが、ロシアに関し、混迷の政治、経済、マフィアのみが語られるのは残念。両国の歴史交流こそお互いが知るべきです。不肖、日露関係番組での両国出演も多く、民放祭優秀賞、NHK国際局長賞、前島重賞、日本新聞協会賞ほかを受賞。ビデオレコーダー5~10台の寄贈とプロジェ

クト推進のため放送局、新聞社、企業等のご支援を得たくお力添え下さい。(元NHK国際局ソビエト向け囁託)

蔵元三四郎

『信長』

前号で『侍所』を提案された杉昌英氏と井川公彦氏との三人でゲームソフトのシナリオを手がけています。

素材は信長。凝り性なので、随分詳しくなりました。これまでは江戸時代を舞台にした時代劇を書いて来ましたが、ちょっと知識と見識が広がって喜んでいます。

で、折角ですから信長についてテレビ、ラジオ、小説や漫画原作も手がけてみようかなと考えています。オーディオドラマには是非挑戦してみたいな。

企画の発注、どなたかしてくれませんか?

増田貴彦

中村主水の霊に捧ぐ……

天気屋乱兵衛裏始末

百軒長屋の片隅に住む乱兵衛さんの職業は、今でいうところの気象予報士。空の様子、風の向きなどから今日、明日の天気を占うのだ。が、それはあくまでも表の顔。裏に回れば、晴らせぬ恨みを晴らし、許せぬ悪を斬る凄腕の闇の始末人であった。傘の柄に仕込んだ刃が唸り、今日も悪人どもの血の雨が降る!

はみだし情報

『場外延長戦』

オールスター第2戦(7/21)終盤。突然、イチローがピッチャーとして登板。やんやの喝采! 戦況は第1戦同様、バ軍勝利間違いなしと判断。そこで、ファンサービスの登板となった訳。まさに生粋を熟知の名采配。対するセ軍監督「野球は真剣勝負、お遊び野球はお客に失礼。対戦相手にも失礼。果ては連盟に提訴して決裁を!」とカンカン。小生、両監督の主張をツマミにして、熱狂的な両チームファン夫々の是非論・可・不可論を、とくと聞かせて頂いた。本物の味だと思った。終わりなき戦いだ……。処で、あなたはどちら派?! 小生思うに、要は個人好み。良い悪いではなく、究極的には好きか嫌いかの選択ではないだろうか?

ともあれ、セ・パファン同士の舌戦は延長となり、更け易い夏の夜ネオンの下で、延々と続いたのでした。

たかが野球、されど野球! ああ、疲れた……。

白川 勲

MY APPEAL MY QUESTION

マイアピール マイクエスチョン

アピールって言われたって。そうでした、物書きって謙虚な人々ばかりだから。ゴメンナサイ、そんなあなたを困らせて。

森 治美

暮れには小さな小屋で

年末、スタジオ錦糸町という小さな小さな空間でチェホフの短編「かわいい女」を劇化し舞台に乗せます。東京での拙作の芝居は3年振りでしょうか。

「演出は内田朝雄さんで」と、企画室SENの制作の方からお話があったのは2月前後の寒い時。春には私の名も入った予告チラシが送られて来ましたが、具体的な打ち合わせもないままに。それでも8月中には、内田氏との顔合わせを兼ね意見交換をと動き出しました。「かわいい女」は他の作家や劇団も劇化していますが、幸か不幸かどれも読んでも観てもいませぬから、白紙の状態です。この先、何処かでチラシをご覧になったら、是非、ご覧下さい。

また、9月中旬から10月初旬の日曜名作座(NHK第一)もお聴き頂ければ幸いです。こちらは芥川龍之介の短編を脚色しました。

阿久澤克之

視聴率のボーダーラインは11%か?

ビジネスの世界には、市場における占拠率から戦い勝つための「ランチェスター理論」があるという。「百匹目の猿」船井幸雄著によれば、①独占シェアは74%、②相対的安定値の寡占シェアが42%、③トップシェアが26%で、以下、船井氏が付け加える、④自分の存在が市場全体に影響を与え出す影響シェアが11%、⑤競合者が存在を意識するようになる存在シェアが7%という。

このビジネス理論をテレビ番組に置き換えてみると、往年の『NHK紅白歌合戦』が①であり、最高視聴率42.2の『クイズ面白ゼミナール』が②、そして『クイズ百点満点』が③に該当し、確かに“長寿番組”となっている。そこで、放送時間帯によって尺度が異なるものの、当面、④の11%という視聴率がテレビ番組としてのボーダーラインで、さらに、26%の③トップをめざす番組……そんな番組を企画・構成したい。

小林政広

映画、作りました!

「CLOSING TIME」という映画を作りました。短期決戦型、低予算映画です。ぜひ、見ていただけたらと思います。

貞永方久

来年、封切!

瀬戸内寂聴原作「手鞠」(新潮文庫)、松本幸四郎主演「良寛」を掲げ終えました。どうぞ、ごらんの上、ご高評下さい。来年('97)、封切予定。

小島貞二

「有遊会」において!

「有遊会」がそろそろ20年になる。放送作家協会会員の小さな親睦会から始まり、「半分遊び、半分学ぶ」をテーマに、隔月に浅草で例会を開いている。当初、10名ほどが今は100余名。あらゆる笑芸芸に挑戦、結構勉強になる。作っては消える会の中で、この会など長寿の記録ではないか。興味のある方、どうぞ!

奥山悦伸

出版しました!

先頃、「芸能界あいうえお」という本を出しました。(たちばな出版)880円。

お暇があったら立ち読みでもして下さい。

神津友好

渋谷で夜明けまで

7月に渋谷クアトロ隣に「シアターD」がオープンしました。オーナーは、あの惜しまれて幕を下ろした名所「渋谷道頓堀劇場」の矢野浩祐社長です。どうしても渋谷でバラエティ劇場をやりたいという執念の情熱です。ほだされて私も、石井光三社長ともども、また性懲りもなく、渋谷見番寄席の復活でプロデュースに参画します。1ヶ月のプログラム、各15日公演。一日2回~3回で、金・土曜は始発電車で帰宅してもらおうという狙い。

中味は、メインプレイショー、ダンスパフォーマンス、コン

ト、そして10月から神津知好プロデュース「一芸名人選」が加わります。いま山口椿、和田勉、ホープ軍団、清水ひとみ、愛染恭子などという顔ぶれで盛り上がっています。渋谷の新名所、ぜひ一度のぞいて見て下さい。

池本真司

医事法学を出版しました。

誰でも訪れます定年の季節。遂に自治医大は名誉教授に。その後は、東京農大、日獣医大で相変わらず学生相手。昨今、歯学部医事法学を出版しました。

藤本良一

若者に媚びない大人向けの旅番組を！

この春、大人向けのお節介ガイドブックを出版。題名は「粋な大人のヨーロッパ」(藤本良一著・教育出版センター発行1500円)

従来のガイドブックは、どちらかといえば若者向けの安上がりが旅行志向で、物足りない内容のものが多かったのですが、「大人の男と女」がヨーロッパに旅するときに役立つものとして書きました。読者からの反応も多く、講演依頼なども舞い込んで、活字メディアの意外な強さを実感しました。初版は完売して、たがい増刷分が全国の書店に配本されています。旅ブームの折り、電波媒体にも大人のためのトラベル・ガイドを乗せられたらと思う所存です。取り上げて下さる番組があればご連絡下さい。

毛利恒之

英語併記の会員IDカードを

先日、脚本家連盟事務局で、顔写真をはった「会員証・連盟員証」に「WGJマーク」のシールプレスをしてもらいました。協会員、連盟員おなじみの、あの黄色いカードの必要を感じていたのですが、国内でも思いがけないところで、身分証明ができる、しっかりしたIDカードが欲しいと思わされました。

インターナショナルに通用するよう、英語併記で、顔写真をシールプレスし、ビニールコートのパウチをした立派なものを、協会・連盟で作っていただけませんか。スマートなデザインになるとうれしいですね。協会と連盟を繋ぐ、私たちのアイデンティティの証しともなり、会員・連盟員の誇りともなりますように——。希望者のみ、有料で、ということでしょうかと私は思います。

木庭久美子

出版しました

9月中に「夢二の妻・ピアフの妹」二作を含む本を武蔵野書房より出版します。来年(1997)7月「夢二の妻」は民芸にて上演予定です。目下鎌倉市民劇場の為に戯曲「花も嵐も」を執筆中です。

尾崎左永子

古典を伝えたくて

相変わらず古典文学を中心に仕事をしています。古典を後の世代にたのしく伝えるための架け橋になれたらと思っています。「源氏物語」をはじめ「枕草子」「かげろう日記」「古今・新古今集」「梁塵秘抄」と中古文学が中心です。放送でももっと取り上げていただけるとうれしいのですが。

高橋千津子

地球を考える人形劇！

久しぶりに童心に返り人形劇の脚本と演出を手掛けました。「(財)劇団すぎのこ」による[“野菜の王国・ベジタべる物語”緑の星]。

テーマは環境問題。オゾン層の破壊の話です。「環境問題」という難しい素材を、子供たちに分かり易くするために、地球を「緑の星」に例え、我々人類を「野菜たち」に置き換えて描きました。

この野菜たちに置き換えたのは最近の子供たちに多く見られる「野菜嫌い」に対して野菜たちと親しみを持ってもらおうとの狙いであり、「ベジタべる……」というのは、「野菜を食べる……」をもじった題でもあります。

幼稚園や保育園に巡回して公演するという展開での制約は多く、まず出演者は4名、その4名が照明や音楽(テープ出し)そして幕引きもやらなくてはなりません。一人三役をこなしてもらい、登場人物は11人。舞台の警備表はまるでパズルのようでした。

5月中旬から北海道地区から始まった人形劇の巡回公演数は129。鑑賞した子供たちは約13000人。そして、同時に出版した人形劇と同じ内容の絵本の販売数は約1100冊となっており、巡回公演はこれから3年かけて日本を回り、絵本の年内重版を準備する中での作品の次の展開をテレビのアニメと考えているのですが……さて。

はみだし情報

新番組をよろしく

今月(10月)から始まる新番組「快刀! 夢一座七変化」(テレビ朝日)をよろしく。

井川公彦

(私のストレス解消法)

土屋佳緒里

(株)システム サコム

『リラクゼーション・CD-ROM』配下が?

みなさん、ストレス溜まってないですか? はげ口ありますか? 人間関係ねじくれているし、仕事は修羅場で、麻痺状態の心を抱えながら、がんじがらめの毎日を送っていませんか?

そんなあなたに贈りたい、『リラクゼーションCD-ROM』。ストレスで凝り固まった心の安らぎを解きほぐし、フレッシュなパワーを与えます!

……という訳で、ソフト開発に携わるわたしが現在関わっているのがリラクゼーション・CD-ROM。もちろん、現場がみな同じであるように、スタッフ全員でてんこ舞いの慌ただしさ。おかげでわたしはチョコレート依存症、あの褐色の宝石だけがわたしを支える心のオアシスになっています。

リラクゼーションを訴える側がストレス溜めるなんていい笑話です。が、一体ストレスの溜まらない仕事なんてこの世に存在するのかしら? そんなもの、きっとないに決まっている。そんなふうに皮肉ってみる毎日です。ああ、チョコレート、チョコレート……。

疋田哲夫

料理

私のストレス解消法は、唯一の趣味である「料理」をして、家族や友人に食べさせることです。ただ趣味といっても、かなり凝る方で、必ず素材は自分で市場へ買い出しに行き、吟味するし、器や盛りつけにも自分なりの創意工夫を心がけています。又、2ヶ月に一回、大阪ミナミの小料理屋を借り切り、大阪の落語家桂南光さんと二人で料理会を開催しています。その会も、5年目。毎回、10~12品の本格的な会席料理です。希望者はご一報下さい。

渡邊貴美子

紅茶とケーキ

女としても生きてみたい。そう思って原稿に追われる独身に終止符。ところが女としての障害は結婚後にあり、止むなくライター生活を休業。かと言ってじっとしてられない。

日本で只一つの学校と言われる日本紅茶協会の学校に入学し、ティーインストラクターの資格を取得。元々ケーキを作るのが好き。美味しい紅茶も入れられたらと思ったのがきっかけ。

自作のケーキに気に入ったカップを添えているうちに、詩でもかいてみたくなるような風景に気がきました。

そっか、シナリオだけがライターの仕事じゃない。他にも文章が必要な場面もあるんだと、変に納得。近いうちに文を書く世界へ戻ろうと決めています。

時代劇を書き続けたほんの少し前迄、日本の歴史に没頭。今は紅茶の為に英国の歴史を、ケーキの為に仏の歴史の本を読み机上の上で世界を駆け巡っています。ちょっとシナリオを休むのも悪くなかった気がします。仕事に疲れたら、ストレス解消に素敵なティータイムを演出してみてください。

旭丘光志

フランスの中古カメラは印象派

毎日文学と組んずほぐれつしていると、仕事以外では文学と関わりたくなくなる。もっともそれは年のせいで、根気の弱りが来ているためであるのだが——。

ここ数年、下手な写真に凝っている。シャッターを切った瞬間がフィルムにどう定着しているのか。現像が上がってくるまでスリル満点で、たまには上がりを見て「やった!」と一人で快哉をあげることもある。(どうしようもないナルシズムの極致か)。最近FOCA(フォカ)というフランスの昔のカメラを手に入れたのだが、これが面白い写り方をする。何を撮っても印象派風に撮れてしまうのだ。さすがフランスと脱帽の今日この頃。ポヤッと写真を観る至福をくれる。

はみだし情報

言葉に魅せられて

このところ日本語のとりこになっている。きっかけは「日本の職人ことば事典」に出会ったことで、古くから伝えられているようなものから事実に即した的確な表現まで、記載されたことばは瞠目に値する。また、誤用されてきたことばの語源などもあり、浅学非才の身をかこつばかりだ。勿論、記載されたことばの中には人口に膾炙したものもあるが、それはそれで改めて正しい意味を知ったりする。著者の清野文男氏は、たとえば一つのことばを得るのに、寡黙な職人さんの仕事場に何日も通い詰めたこともあるという。ことほどさように、埋もれた日本語の掘り起こしは難しい。そして著者のような努力こそがこの貴重な辞書を世に出したのだろう。

磯村愛子

首都高速トライアルMAX 販売自粛要請について

君よ憤怒の河を渡っても無駄か?—2〈激怒烈風編〉

5月3日と7月19日の2回に渡って僕は警察に呼び出された。いわゆる事情聴取というヤツである(ある手続きのため、仕事場の近所まで呼び出された回数を含めば都合4回を超える)。まず最初いって驚いたのは、僕の住所、本籍、両親の名前や年齢まですでにリストアップされていたことだった。僕はまるで、自分が犯罪者にでもなったかのような嫌な気分になった。この仕事を紹介してくれたS氏との関係や、何故シナリオライターになったかなど、事件の本筋とは関係ないことまであれこれ聞かれた。言葉は丁寧だが、どこか威圧的な口調。「あなたのシナリオでみんな動いたんだから」といわれたときには一瞬なんて反論していいのかわからなかった。

僕は脚本家と監督の役割分担について話をしなければならなかった。これが同業者ならこんなわかりきった説明は不要である。しかし、当たり前だが、刑事(正確には警視庁交通課の私服捜査官)には製作のシステムや流れといったものはわからない。「撮影台本まで脚本家を書くのか」といわれたときにはア然としてしまった。また、「ダミーのトラックを前後に挟んだブロック撮影を指示したことはないか」とまで聞いてくる。冗談じゃない。ライターがこのこ出でいてそんなことまで指示するものか。ライターの仕事とは、お話をすることであり、そのお話の各シーンをどのような手法、演出で撮るかは監督の裁量に任されている。このような意味のことを何度となく喋った。

それでも、こっちに責任の一端があるようなことを刑事たちはいってくる。「あなたは今までのシリーズをビデオで見ているのだから、自分が脚本を書く際、違法な撮影が行われることを予測できたはずだ」

そんな予測ができるか。シリーズは5本も出ているし、『首都高』だけじゃない。そのテの走り屋モノのビデオはバンバン出ている。そういった『状況』のなかで「疑いを持って」という方がおかしい。当然、法的にクリアになっているから撮影できたと思うのが自然だ。

役割分担の繰り返しになるが、僕はチャンバラ時代劇の例をとって説明する。僕は時代劇のホンを書いたことはないが、おそらくシナリオには「ぶった斬る」という書きがふんだんに使われているはずだ。だからといってライターはモノホンのボン刃で役者を実際に斬って欲しいとは思わないだろう。またその際、迫力を出すため、現場で実際にボン刃を使

用して事故が起きたとしても、ライターに責任があるのだろうか。監督以下、現場スタッフの責任であることはいうまでもないだろう。

何度も何度も同じことを聞かされて、その都度、わかりやすいように比喻を用いたり、ときには反論したりするのは非常に消耗を伴うのである。そのうえ、第一稿と第二稿ではどこをどう直したか。打ち合わせの席にはだれとだれがいたか、なんてことも聞いてくる。一年以上も前のことを克明に覚えているはずもなく、記憶をまさぐっているうちに頭が痛くなっていくほどだ。僕はふと冤罪事件の容疑者のことを思った。こうやって何度も同じことを聞かれると、集中力が途切れてつい、「私がやりました」なんていってしまうんだろうな。僕もそうやってしまいたい誘惑にかられたが何をやったといえはいいのだろう。僕はホンを書いただけなのに……。

まさしく、僕はホンを書いただけなのである。ホンのなかでは、交通違反も、殺人も、レイプも自由自在だ。それに文句をつけるということは思想統制と同じである。いや、これは思想統制ですらない。見てくれればわかるが首都高シリーズは「公道を走ってはいけない」というテーマを一貫して掲げている。今回のホンもそのスタンスで僕は書いた。主人公はさまざまな傷や挫折を経て、最後はサーキットに戦いを移すということは社会的な認知の場に立つということである。ホンのなかで描かれる『交通違反』はテーマを鮮明に浮かびあがらせる手段であって、反社会的な行為を是認したモノではない(断っておくが、それは今回のホンを執筆する際のもので、僕はいつでも必死に反社会的なものを書き進める確信をもって書く用意はあるのだ)

しかしまあ、話をしていくうちに、そんなことは刑事たちも百も承知であることがわかってきた。彼らの目的はただひとつ。「にっかつ」のうえ(上層部)を叩きたいのだ。今までの再三の申し入れを無視されてメンツがかかっているのだろう。僕から何らかの証言を引き出したいというわけだ。しかし、プロデューサーがライターに交通違反の密談などもちかけてくるはずもなく、刑事たちは何度責めても手応えのない僕に失望したようだ。勝手に期待をかけられた僕としてはいい迷惑である。

——というわけで、腹が立って収まらない僕は家に帰るとあ

ちこちの友人知人に電話して、うっぶんをおまけた。すると、反応は大方ふたつに割れた。「運が悪い」というのと「貴重な経験ができてよかったじゃないか」のふたつだ。確かに一回目の事情聴取では、参考人として供述調書まで取られた。供述調書なるものが、どのようにして作成されるのか、実地体験できたのである。うーむ、と僕は腕を組んで考え込んでしまった。ふと脳裏に「真に才能を有する者は、その分マイナスの運命も呼び込む」といったふうな言葉が蘇った。結局、この“受難”をプラスに変えるかどうかはやはり、心の持ちようであり、ライターとしての今後の頑張りにかかっているのだと最近では思うようになった。このままでは僕は運命に負けたことになる。「意思あるものは運命を切り開いて、意思なきものは運命に引きずられる」という言葉もある。だから、自分を励ます意味でこの文を書いた。発禁処分となった「首都高速トライアルMAX」もならぬかの形で“供養”してやらなければと、この頃は考えている。

首都高速トライアルMAX 脚本・増田貴彦

表現の自由に関する問題には、事実の真偽や経緯を調査しつつ、あらゆる団体に抗議行動などをする準備があると、日本放送作家協会理事会において確認しています。また、著作物に直接関係するトラブルが生じた時は、日本脚本家連盟著作権部までご連絡下さい。

掲示板!

■ ちょっと教えて ■

この指と〜まれ

子供の頃、「ロクムシ」という遊びが、はやっていました。陣取りと三角ベースボールと鬼ごっこを混ぜたようなゲームです。昭和30年代から40年代前半に少年少女だった方なら懐かしいのではないのでしょうか。これ、メチャオモロウで、丸一日、遊んでました。誰かルールを覚えてる方、ストレス発散と体力増強のために、仲間を募って遊びませんか?

井川公彦

お知らせください

今、1929～30年(昭和4～5年)の朝鮮の大邱のことを調べています。その頃大邱に居られた方(国籍不問)、あるいは居られた方をご存じの方、是非、ご一報ください。

阿部基治 TEL/FAXとも

「ちょっと教えて」 その後の反応に感謝!!

台湾放送協会の中山侑さんとその同僚の消息について掲載していただいたところ、中山侑さんについては西澤実さんから彼が台北一中の野球選手だったことをご教示いただきました。また同僚の鬼塚氏の消息は井田敏さんからRKB 毎日の職員名簿にあった住所を教えていただきました。ありがとうございました。

津川 泉

日本放送作家協会 新執行部

会長	阿木翁助	企画事業委員 (長)高桐唯詩 (副)荻原美和子
理事長	岩間芳樹	井上美保子 蔵元三四郎 後藤 盾
常務理事	水原明人 井川公彦	竹内日出男 高谷信之 羽柴彦彦
規約委員会	(長)布勢博一 大倉徹也 蔵元三四郎	藤森いずみ 毛利恒之 吉田玲子
	松本 醇	広報委員会 (長)東 多江子 (副)清水喜美子
財務委員会	(長)大川タケシ 真木柚子	瀧沢とも子 田北豊明 平柳益実
出版委員会	(長)さらだたまこ 井上美保子	藤森 尊 星川泰子 宮川優子
	城市貴夫 津川 泉 長野容子	森 治美 横光 晃
	三浦和明 渡辺麻美	